

安藤英義 教授 履歴・業績

安藤英義 教授 履歴・業績

履 歴

昭和18年（1943）7月 東京都豊島区生まれ

[学 歴]

昭和37年（1962）3月 東京都立小石川高等学校卒業
 42年（1967）3月 一橋大学商学部卒業
 44年（1969）3月 〃 法学部卒業
 46年（1971）3月 〃 大学院商学研究科修士課程修了・商学修士
 49年（1974）3月 〃 大学院商学研究科博士後期課程単位修得・退学
 60年（1985）4月 商学博士（一橋大学）

[職 歴]

〈本務〉

昭和49年（1974）4月 一橋大学商学部専任講師
 53年（1978）4月 〃 商学部助教授
 60年（1985）4月 〃 商学部教授
 平成12年（2000）4月 国立大学法人 一橋大学大学院商学研究科（兼 商学部）教授
 19年（2007）3月 〃 一橋大学定年退職
 19年（2007）4月 専修大学商学部教授／一橋大学名誉教授
 26年（2014）3月 専修大学定年退職
 26年（2014）4月 専修大学大学院商学研究科教授

〈主な兼務〉

平成2年（1990）12月 一橋大学学生部長〔2年間〕
 7年（1995）10月 （政府）税制調査会専門委員〔8年8ヶ月間〕
 8年（1996）8月 一橋大学商学部長〔2年間〕
 10年（1998）12月 一橋大学附属図書館長〔3年間〕
 13年（2001）1月 （政府）財政制度等審議会臨時委員〔10年間〕
 14年（2002）10月 日本公認会計士協会監査業務モニター会議委員〔17年間〕
 15年（2003）9月 日本会計研究学会会長〔3年間〕
 17年（2005）3月 （民間4団体）「中小企業の会計に関する指針」作成検討委員会委員長〔至現在／当初は「中小企業の会計」の統合に向けた検討委員会〕
 17年（2005）4月 （政府）教科用図書検定調査審議会会長〔1年間〕
 18年（2006）7月 一般財団法人 建設業振興基金理事〔至現在／就任当時は財団法人〕
 18年（2006）7月 公益財団法人 全国銀行学術研究振興財団監事〔至現在／就任当時は財団法人〕

- 19年（2007） 1月 （政府）企業会計審議会会長〔10年間〕
- 19年（2007） 4月 公益財団法人 財務会計基準機構評議員〔10年3ヶ月間／就任当時は財団法人〕
- 21年（2009）10月 税務会計研究学会会長〔6年間〕
- 24年（2012） 4月 公益財団法人 日本税務研究センター評議員〔至現在〕
- 25年（2013） 4月 一般財団法人 建設産業経理研究機構評議員〔至現在〕
- 29年（2017） 2月 **NHK** 受信料制度等検討委員会委員（座長）〔至現在〕
- 29年（2017） 6月 一般財団法人 産業経理協会会長〔至現在〕

業 績

[著書・編書・監修]

- 1985年6月 『商法会計制度論—商法会計制度の系統的及び歴史的研究—』 国元書房〔博士論文〕〔日経・経済図書文化賞（昭和60年度）受賞／日本会計研究学会太田賞（昭和61年度）受賞〕
- 1993年2月 『会計学研究』（2名の共編著）中央経済社
- 1996年9月 『会計フレームワークと会計基準』（編著）中央経済社
- 1996年9月 『会計学大辞典〔第四版〕』（7名の編集委員）中央経済社
- 1997年5月 『新版 商法会計制度論—商法会計制度の系統的及び歴史的研究—』 白桃書房
- 2001年2月 『簿記会計の研究』 中央経済社
- 2003年12月 『ケース別 勘定科目便覧〔九訂版〕』（監修）ぎょうせい
- 2006年9月 『基本 簿記用語辞典〔四訂版〕』（監修）同文館出版
- 2007年4月 『貸付用語辞典〔第9版〕』（5名の責任編集）銀行研修社
- 2007年5月 『会計学大辞典〔第五版〕』（4名の編集代表）中央経済社
- 2007年6月 『会計学論考』（編著）中央経済社
- 2010年4月 『基本 簿記用語辞典〔五訂版〕』（監修）同文館出版
- 2011年4月 『企業会計と法制度』（体系現代会計学第5巻／3名の共編著）中央経済社
- 2013年1月 『新簿記』（監修／文部科学省検定済高等学校教科書）実教出版
- 2013年9月 『基本 簿記用語辞典〔六訂版〕』（監修）同文館出版
- 2014年1月 『新財務会計Ⅰ』（監修／文部科学省検定済高等学校教科書）実教出版
- 2017年1月 『新簿記〔新訂版〕』（監修／文部科学省検定済高等学校教科書）実教出版
- 2018年1月 『新財務会計Ⅰ〔新訂版〕』（監修／文部科学省検定済高等学校教科書）実教出版
- 2018年8月 『会計における責任概念の歴史—受託責任ないし会計責任—』（編著）中央経済社

[論文等]

- 1971年1月 「株式会社会計制度に於ける二つの利益概念—期間資本維持利益と拘束資本維持利益—（上・下）」修士論文（写本）
- 1974年1月 「株式会社会計法評価規定の展開—ドイツ及び日本—（上・下）」博士課程単位修得論文（写本）
- 1975年4月 「株式会社会計法評価規定の展開—時価主義評価規定の成立まで—」『一橋大学研究年報・商学研究』18
- 1975年6月 「商法の貸借対照表規定と破産法との関連—貸借対照表法に於ける債権者保護問題への第一歩—」『一橋論叢』73巻6号
- 1976年6月 「The Two Types of Legal Company-Accounting in Its Early Days—German Type and English Type—」Hitotsubashi Journal of Commerce & Management Vol.11 No.1
- 1976年7月 「商法貸借対照表規定の軟化とその要因—貸借対照表法に於ける債権者保護問題への第二歩—」『一橋論叢』76巻1号
- 1976年11月 「商法会計に於ける債権者保護思考の系譜」（日本会計研究学会第35回大会（専修大学）自由論題報告）『會計』110巻5号〔日本会計研究学会学会賞（昭和52年度）受賞〕

- 1977年2月 「株式会社会計法評価規定の展開—最高限度額主義の時代—」『一橋大学研究年報・商学研究』19
- 1977年10月 「初期商法に於ける貸借対照表の系譜」『一橋論叢』78巻4号
- 1978年3月 「財産目録と貸借対照表—初期商法に見る両者の関係—」『一橋論叢』79巻3号
- 1979年6月 「出資者の為の分配利益計算規定の展開—商法会計に於ける出資者保護の一系譜—」『會計』115巻6号
- 1979年8月 「商法の貸借対照表規定と支払不能破産原因—貸借対照表法に於ける債権者保護問題への第三步・完—」『一橋論叢』82巻2号
- 1979年9月 「商法・商業帳簿規定の変化とその原因」『企業会計』31巻9号
- 1980年1月 「初期商法に於ける『計算書』の系譜—損益計算書の先駆—」『一橋論叢』83巻1号
- 1980年9月 「ドイツ商法に於ける“監査”の語の変遷」『一橋論叢』84巻3号
- 1980年12月 「独・仏会社法の利益概念および計算方式—伝統の違いと相互の影響—」『企業会計』32巻12号
- 1981年6月 「商法に於ける顛末報告会計の展開—改正案に於ける第284条の削除の意味—」『會計』119巻6号
- 1981年7月 「商法に於ける状況報告会計の展開—出資者保護の一系譜—」『一橋論叢』86巻1号
- 1981年12月 「商法会計における株主保護の構造」『企業会計』33巻13号
- 1982年5月 「会計責任と責任解除—プロシア法に見るその本質と変化—」吉永榮助先生古稀記念『進展する企業法・経済法』第三編V 中央経済社
- 1982年10月 「会社法の配当規制と破産法との関連」『産業経理』42巻6号
- 1983年1月 「利益供与の禁止と顛末報告会計」『會計』123巻1号
- 1984年1月 「商法における会計監査と業務監査の関係」『會計』125巻1号
- 1984年3月 「取締役の違法行為と貸借対照表等の適法・不適法—商法特例法第16条の問題点—」『一橋論叢』91巻3号
- 1985年7月 「「計算の明確・適正」と商法会計制度—大小会社区分立法に係る会計・監査問題の基点—」『産業経理』45巻2号
- 1986年1月 「商法の会計目的から見た大小会社区分立法」『企業会計』38巻1号
- 1986年3月 「会計監査と業務監査の関係と監査役及び会計監査人の監査」『月刊監査役』215号
- 1987年6月 「商法の会計目的と大小会社区分立法」（前掲『企業会計』38巻1号掲載論文に加筆）中島省吾編著『会計基準論—目的多様化への対応を求めて』II §5 中央経済社
- 1987年10月 「二つの資本概念と株式会社本質論」『企業会計』39巻10号
- 1987年12月 「商法による財務諸表の規制」『会計人コース』別冊（通巻35号）『財務諸表論の基本学習』中央経済社
- 1988年1月 「商法会計制度の方向」『會計』133巻1号
- 1988年1月 「商法における財産目録の復権」『一橋論叢』99巻1号
- 1988年9月 「簿記および会計の空洞化」『企業会計』40巻9号
- 1988年9月 「第6章 企業会計法 第1節 昭和20年～昭和40年」黒澤清・染谷恭次郎・若杉明編『現代会計学の動向I—財務会計—』中央経済社
- 1989年3月 「簿記書の資本中心主義化」『会計ジャーナル』21巻4号

- 1989年11月 「簿記および会計の空洞化」(前掲『企業会計』40巻9号掲載論文を再録) 新井清光編著『企業会計原則の形成と展開』第二部第二章 中央経済社
- 1990年5月 「ドイツの商人文化と簿記書」『企業会計』42巻5号
- 1990年9月 「イギリスの簿記書と組織文化」『会計』138巻3号
- 1991年2月 「簿記教本のお国柄」『NHK 学園簿記講座』機関誌25巻6号(通巻88号)『簿記(1991)2・3月号』NHK 学園
- 1991年12月 「日本の会計とアメリカの会計—会計の国際的調和化の限界—」『税経セミナー』36巻16号
- 1992年12月 「重要性の原則とお国柄—会計士の論理と会計系の論理—」『会計人コース』27巻14号
- 1993年2月 「会計と統計の間—統計と区別される会計の本質—」森田哲彌先生還暦記念論文集刊行委員会編『会計学研究』I章 中央経済社
- 1993年7月 「〈会計時評〉歴史に学ぶ会計の2つの機能の関係」『企業会計』45巻7号
- 1993年8月 「〈会計時評〉商法および簿記書に財産目録の復活を！」『企業会計』45巻8号
- 1993年9月 「〈会計時評〉会計の統計化現象」『企業会計』45巻9号
- 1993年10月 「保守主義の原則と重要性の原則—各国の会計基準等と会計の機能—」『松山大学論集』5巻4号
- 1994年6月 「配当可能利益計算の複雑化と貸借対照表の資本の部」『企業会計』46巻6号
- 1994年6月 「保守主義の原則と重要性の原則—各国の会計基準等と会計の機能—」(前掲『松山大学論集』5巻4号掲載論文を再録)若杉明編著『会計国際化の展開』第2部第1章 ビジネス教育出版社
- 1995年5月 「会計における主観主義と客観主義」『会計』147巻5号
- 1995年9月 「外貨建取引の換算」『企業会計』47巻9号
- 1996年5月 「会計の機能と会計制度—確定決算主義の背景—」『企業会計』48巻5号
- 1996年7月 「オンバランス化の諸方式—一元主義と多元主義—」『企業会計』48巻7号
- 1996年8月 「外貨建取引・金融派生商品等の会計基準」(日本私法学会商法部会シンポジウム「企業会計と会社法」報告)『旬刊商事法務』No.1432
- 1996年9月 「情報のフレームワークと計算のフレームワーク—委員会報告への質問に答えて—」安藤英義編著『会計フレームワークと会計基準』第3部1 中央経済社
- 1997年1月 「商法会計における保守主義の動向」黒田全紀編著『会計の国際的動向』第7章 同文館
- 1997年4月 「外貨建取引・金融派生商品等の会計基準」(シンポジウム・企業会計と会社法報告Ⅲ)『私法』59号 日本私法学会
- 1997年5月 「外貨建取引の換算」森田哲彌・白鳥庄之助編著『外貨建取引等会計処理基準詳解』第3章 中央経済社
- 1997年6月 「ゴーイング・コンサーンと会計基準」『会計人コース』32巻7号
- 1998年1月 「アメリカで揺らぐ資本概念(資本と利益の区別)」『会計』153巻1号
- 1998年4月 「高等学校簿記会計教育を考える」『じっきょう商業教育資料』No.49(通巻337号)実教出版
- 1999年1月 「貸借対照表」(特集・会計基準の変遷と展望)『企業会計』51巻1号
- 1999年5月 「株式会社の債務超過の判定問題—清算ベースとゴーイング・コンサーン・ベース」『会計』155巻5号
- 2000年5月 「会計の進展と簿記の混乱」森田哲彌編著『簿記と企業会計の新展開』第2章 中央経済社

- 2000年6月 「企業会計における二つの論理—企業の論理と市場の論理—」『JICPA ジャーナル』12巻6号
- 2000年7月 「会計諸基準における違和感とその背景」『企業会計』52巻7号
- 2000年9月 「資産の個別評価とグループ評価—企業の論理と市場の論理の交錯—」『会計』158巻3号
- 2001年6月 「わが国に存在すると思われる概念フレームワークと今後の方向性」概念フレームワークに関する研究委員会報告『概念フレームワークに関する調査』第3部第3章 財団法人企業財務制度研究会
- 2001年9月 「わが国における会計制度と会計原則の関係—過去と現在—」『会計プロGRESS』2号 日本会計研究学会
- 2002年1月 「商法と会計基準」『企業会計』54巻1号
- 2002年4月 「会計の二つの機能をめぐる諸問題—利害調整と情報提供—」『一橋論叢』127巻4号
- 2002年8月 「商法における資本制度の揺らぎと『資本の部』の表示」『会計』162巻2号
- 2002年11月 「吉田良三「取引要素説」の形成」『一橋論叢』128巻5号
- 2003年9月 「株式会社の資本制度崩壊の兆し」『会計』164巻3号
- 2005年1月 「会計基準の設定主体と適用範囲—わが国における歴史の変遷—」『企業会計』57巻1号
- 2005年3月 「公会計の整備について—企業会計化の現状と課題—」『決算行政監視関係調査資料』衆議院決算行政監視調査室
- 2006年9月 「資本概念の変化—資本概念をめぐる商法と会計の離合の歴史—」『企業会計』58巻9号
- 2006年9月 「会計と簿記の間—表示科目と勘定科目の関係など—」『会計』170巻3号
- 2007年6月 「「資本と利益の区別」起源考」安藤英義先生退官記念論文集刊行委員会編『会計学論考—歴史と最近の動向—』第1章 中央経済社
- 2007年7月 「日本会計研究学会の研究倫理諸規程」武田隆二責任編集『現代社会における倫理・教育・コンプライアンス』第Ⅱ編第4部第1章 税務経理協会
- 2008年8月 「財務会計テキストの現状」『会計』174巻2号
- 2009年1月 「会社法における資本概念の崩壊と税務会計」『税経通信』64巻1号
- 2009年5月 「IFRS 導入と会計制度の展望」『企業会計』61巻5号
- 2009年9月 「会社法と税務会計—資本をめぐる両者の関係の歴史—」『税務会計研究』20号 税務会計研究学会
- 2009年11月 「IFRS 任意適用に向けた課題と制度上の準備状況」『旬刊商事法務』No.1881
- 2010年6月 「簿記の財務会計化と「資本」衰退への危惧」『会計』177巻6号
- 2010年6月 「IFRS の影響と中小企業の会計」『季刊会計基準』29号
- 2011年4月 「商法・会社法会計の展開」安藤英義他2名編著『企業会計と法制度』（体系現代会計学第5巻）第1章 中央経済社
- 2011年5月 「企業会計制度の現状と課題—混乱期の様相—」『じっきょう商業教育資料』No.88（通巻376号）実教出版
- 2011年8月 「会計基準等に対する簿記の独立性」『会計』180巻2号
- 2012年4月 「財務会計と財務報告の間」『企業会計』64巻4号
- 2012年7月 「〈研究ノート〉商工省「財務諸表準則」（1934年）の再評価—「企業会計原則」に対する先駆性—」『専修商学論集』95号
- 2013年5月 「会計制度における財産目録の危機的状況と復活論」『会計』183巻5号

- 2013年7月 「〈資料〉鹿野清次郎「計理学」の顛末」『専修商学論集』97号
- 2015年7月 「〈研究ノート〉株式会社の配当規制の各国現状比較—日・欧・米—」『専修商学論集』101号
- 2017年5月 「商業教育の原点—史実とプライド—」『じっきょう商業教育資料』No.106（通巻394号）実教出版
- 2017年7月 「会計帳簿と財産目録—会計の原点とその現状—」『専修商学論集』105号
- 2017年8月 「会計のグローバル化に変化」『建設業の経理』80号
- 2017年8月 「フランス（語）における「会計責任」概念」安藤英義編著『会計における責任概念の歴史—受託責任ないし会計責任—』第1部第6章・第2部第6章 中央経済社
- 2017年8月 「会計責任会計と各国会社法—独・英・米・日—」安藤英義編著『会計における責任概念の歴史—受託責任ないし会計責任—』第3部第6章 中央経済社
- 2019年3月 「〈研究ノート〉簿記用語の歴史探索—①簿記・帳合・記簿 ②勘定・勘定科目 ③読み書き算盤—」『会計学研究』45号 専修大学会計学研究所

[講演録]

- 1994年11月 「(企業法務②) 商法会計」如水会 第27期一橋フォーラム21
- 1999年7月 「一橋における商業教育の発展と課題」如水会 第40期一橋フォーラム21「キャプテン・オブ・インダストリーの復権」⑫
- 2001年3月 「企業会計の進展と簿記会計学」日本商業教育学会千葉支部 研究集録第6集
- 2003年2月 「日本の企業会計の特殊性—会計制度と会計原則・基準の関係—」(専修大学会計学研究所シンポジウム)『専修大学会計学研究所報』8号
- 2003年9月 「改正商法と会計—資本制度の揺らぎをめぐって—」(一橋大学開放講座)『如水会々報』881号
- 2004年4月 「商法と会計基準の最近の動向」(RIACI フォーラム2004TOKYO)『建設業の経理』27号
- 2004年10月 「一橋と簿記と西川文庫」(平成15年度附属図書館企画展示 講演会)『鐘：一橋大学附属図書館報』47号
- 2004年11月 「資本制度の揺らぎ—背景と展望—」『季刊 企業と法創造』1巻3号 早稲田大学21世紀COE <企業法制と法創造>総合研究所
- 2006年3月 「商法と会計—歴史から見る相互の関係—」『横浜経営研究』26巻3・4号 横浜国立大学経営学会
- 2009年11月 「わが国税務会計の商法依存と自立化」『税財政の今後の課題と展望』(日本租税研究協会創立60周年記念租税研究大会記録) 社団法人日本租税研究協会
- 2013年9月 「会計学研究と現代会計」(日本会計史学会第31回大会(専修大学)記念講演)『会計史学会年報』31号
- 2019年7月 「会計の本質と会計制度—税務会計の特殊性—」(税務会計研究学会第30回大会(立教大学)記念講演)『税務会計研究』30号 税務会計研究学会
- 2019年7月 「日本における会計教育—歴史の節目と今日の課題—」(専修大学会計教育100周年・会計学科50周年記念講演)『専修商学論集』109号

[書評・人物紹介・追悼文]

- 1987年4月 (書評)「森藤一男著『財務会計制度論』』『企業会計』39巻4号
- 1987年5月 (人物紹介)「白鳥庄之助—新試験委員のプロフィール」『税経セミナー』32巻5号
- 1991年5月 (人物紹介)「大藪俊哉委員—第41回税理士試験新委員のプロフィール」『税経セミナー』36巻6号
- 2001年6月 (書評)「北村敬子・今福愛志編著『財務報告のためのキャッシュフロー割引計算』』『税経通信』56巻8号
- 2004年1月 (書評)「弥永真生著『「資本」の会計』』『企業会計』56巻1号
- 2007年4月 (追悼文)「加古宜士先生を偲ぶ」『産業経理』67巻1号
- 2007年10月 (追悼文)「飯野利夫先生を偲んで」『産業経理』67巻3号
- 2008年1月 (追悼文)「飯野利夫先生を偲ぶ」『建設業の経理』42号
- 2008年4月 (追悼文)「飯野利夫先生を偲ぶ」『会計』173巻5号
- 2008年5月 (書評)「富岡幸雄著『新版 税務会計学講義』』『税経通信』63巻5号
- 2009年1月 (追悼文)「中村忠先生を偲んで」『産業経理』68巻4号
- 2009年7月 (追悼文)「新井益太郎先生を偲んで」『産業経理』69巻2号
- 2010年9月 (書評)「松土陽太郎・藤田厚生・平松朗著『新版 財務諸表規則逐条詳解』』『企業会計』62巻9号
- 2011年4月 (書評)「佐々木重人著『近代イギリス鉄道会計史—ロンドン・ノースウェスタン鉄道会社を中心に—』』『企業会計』63巻4号
- 2011年11月 (書評)「神森智著『財務会計と財務諸表監査—その存在論的考察と当為論的考察』』『企業会計』63巻11号
- 2012年10月 (追悼文)「武田昌輔先生を偲んで」『産業経理』72巻3号
- 2013年9月 (書評)「渡邊泉編著『歴史から見る公正価値会計—会計の根源的な役割を問う—』』『会計』184巻3号
- 2014年1月 (書評)「弥永真生著『会計基準と法』』『産業経理』73巻4号
- 2014年4月 (追悼文)「中島省吾先生を偲んで」『産業経理』74巻1号
- 2014年7月 (書評)「藤井秀樹編著『国際財務報告の基礎概念』』『企業会計』66巻7号
- 2014年7月 (書評)「横山和夫著『引当金会計制度論—日本における引当金会計制度の史的変遷—』』『産業経理』74巻2号
- 2014年9月 (書評)「佐藤博明・ヨルク ヴェトゲ編著『ドイツ会計現代化論』』『会計』86巻3号
- 2014年10月 (追悼文)「森田哲彌先生を偲ぶ」『会計』186巻4
- 2014年10月 (追悼文)「森田哲彌先生を偲ぶ」『産業経理』74巻3号
- 2015年3月 (書評)「田中孝治著『江戸時代帳合法成立史の研究—和式会計のルーツを探求する』』『会計』187巻3号

[座談会・インタビュー]

- 1986年1月 (座談会)「〈シンポジウム〉制度会計の重要課題と展望〈2〉商法会計の問題点」(中村忠司会, 他3名)『企業会計』38巻1号
- 1986年8月 「〈座談会〉『商法・有限会社法改正試案』の焦点〈1〉監査・調査・指導—その分析的検討」

- (新井清光司会, 他4名)『企業会計』38巻8号
- 1991年9月 「〈座談会〉会計教育と公認会計士業界での教育訓練」(遠藤忠宏司会, 他8名)『東京 CPA ニュース』414号
- 2005年7月 「〈座談会〉新会社法と企業会計上の諸問題」(弥永真生司会, 他4名) 企業会計・特別保存版『新「会社法」詳解』中央経済社
- 2005年9月 「〈座談会〉『中小企業の会計に関する指針』(公開草案)をめぐって」(柳澤義一司会, 他4名)『JICPA ジャーナル』17巻9号
- 2005年11月 (インタビュー)「安藤英義・『中小企業の会計』の統合に向けた検討委員会委員長に聞く—『中小企業の会計に関する指針』をめぐって—」『企業会計』57巻11号
- 2007年9月 (インタビュー)「企業会計の今日的課題」『JTRI 税研』135号 財団法人日本税務研究センター
- 2012年9月 「安藤英義先生インタビュー」日本簿記学会理論研究部会『現代簿記論に関する研究(最終報告)』日本簿記学会第28回全国大会(熊本学園大学)
- 2013年8月 (インタビュー)「〈論壇〉IFRSのあり方と今後の企業会計」『建設業の経理』64号
- 2019年1月 (座談会: 企業会計創刊70周年記念)「平成「後」の会計基準へ」(辻山栄子司会, 他4名)『企業会計』71巻1号

[巻頭言その他 (小論的なものあり)]

- 1990年4月 (随筆)「居酒屋とアルゴリズム」『一橋大学ニュース』1990.4 (一橋大学広報委員会)
- 1992年3月 (随筆)「スポーツと会計」『一橋スポーツ』23号 (一橋大学体育会)
- 1992年12月 (随筆)「算盤とアルゴリズム」『日本簿記学会ニュース』No.14
- 1997年1月 (随筆)「高田屋嘉兵衛の船印」『会計人コース』Vol.32 No.1
- 1997年4月 「〈会計余話〉会計の記録手段の今昔」『産業経理』57巻1号
- 1997年7月 「〈会計余話〉西川孝治郎先生の簿記書コレクション—昭和56年夏の思い出—」『産業経理』57巻2号
- 1997年10月 「〈会計余話〉高校の簿記教科書をめぐって」『産業経理』57巻3号
- 1998年1月 「〈会計余話〉会計のブラックボックス化の虞」『産業経理』57巻4号
- 1998年4月 (巻頭言)「会計基準の国際化と企業観」『産業経理』58巻1号
- 1998年5月 (巻頭言)「〈視点〉会計基準の国際化の背後にあるもの」『バンキング』Vol.28 No.5 (通巻468号) 銀行研修社
- 1998年7月 (巻頭言)「「企業会計原則」見直しの急務」『産業経理』58巻2号
- 1998年10月 (巻頭言)「最近の学会諸事情」『産業経理』58巻3号
- 1999年1月 (巻頭言)「債務超過の判定問題」『産業経理』58巻4号
- 1999年4月 「〈会計余話〉高等学校学習指導要領の改訂と簿記会計教育」『産業経理』59巻1号
- 1999年7月 「〈会計余話〉外貨建取引等会計処理基準の改訂案に思う」『産業経理』59巻2号
- 1999年10月 「〈会計余話〉株式交換・移転制度と新たな資本準備金」『産業経理』59巻3号
- 2000年1月 「〈会計余話〉簿記および会計という言葉をめぐって」『産業経理』59巻4号
- 2000年4月 (巻頭言)「IAS 40号『投資不動産』—苦難の成立」『産業経理』60巻1号
- 2000年7月 (巻頭言)「真实性の原則の扱い」『産業経理』60巻2号

- 2000年10月 (巻頭言)「商法と企業会計原則の力関係」『産業経理』60巻3号
- 2001年1月 (巻頭言)「JWG 公開草案『金融商品及び類似項目』の驚き」『産業経理』60巻4号
- 2001年4月 「〈会計余話〉簿記教育の入り方—2つのアプローチ (その1)」『産業経理』61巻1号
- 2001年7月 「〈会計余話〉簿記教育の入り方—2つのアプローチ (その2・完)」『産業経理』61巻2号
- 2001年10月 「〈視点〉企業財務制度研究会『概念フレームワークに関する調査』の取組みを終えて」
『JICPA ジャーナル』13巻10号
- 2001年10月 「〈会計余話〉貸借対照表という言葉をめぐる」『産業経理』61巻3号
- 2002年1月 「〈会計余話〉損益計算書という言葉をめぐる」『産業経理』61巻4号
- 2002年4月 (巻頭言)「商法の動きと会計の回復」『産業経理』62巻1号
- 2002年7月 (巻頭言)「簿記のアイデンティティー」『産業経理』62巻2号
- 2002年10月 (巻頭言)「大学評価と監査」『産業経理』62巻3号
- 2003年1月 (巻頭言)「ゴーイング・コンサーンの問題」『産業経理』62巻4号
- 2003年4月 「〈会計余話〉自己資本・他人資本という言葉をめぐる」『産業経理』63巻1号
- 2003年4月 (巻頭言)「〈道標〉会計基準の国際化と中小企業の会計」『建設業の経理』23号
- 2003年7月 「〈会計余話〉資本と利益に関する言葉をめぐる」『産業経理』63巻2号
- 2003年10月 「〈会計余話〉資産と負債に関する言葉をめぐる」『産業経理』63巻3号
- 2003年10月 (巻頭言)「〈談・論〉学会の目的と役割」『旬刊経理情報』No.1036
- 2004年1月 「〈会計余話〉財産と財産目録をめぐる」『産業経理』63巻4号
- 2004年7月 (巻頭言)「公会計の企業会計化の現状」『産業経理』64巻2号
- 2004年10月 (巻頭言)「研究学会の果たすべき役割」『産業経理』64巻3号
- 2005年1月 「日本会計研究学会の伝統と使命」新日本監査法人『情報センサー』Vol.25
- 2005年1月 (巻頭言)「会社の資本制度の任意化傾向」『産業経理』64巻4号
- 2005年4月 「〈会計余話〉監査という言葉をめぐる」『産業経理』65巻1号
- 2005年7月 「〈会計余話〉財政状態・経営成績という言葉をめぐる」『産業経理』65巻2号
- 2005年10月 「〈会計余話〉引当金、積立金、準備金という言葉をめぐる」『産業経理』65巻3号
- 2006年1月 「〈会計余話〉財務諸表という言葉をめぐる」『産業経理』65巻4号
- 2006年4月 (巻頭言)「『産業経理』バックナンバーCD-ROM 化の快挙」『産業経理』66巻1号
- 2006年7月 (巻頭言)「概念の継続性を大切に！」『産業経理』66巻2号
- 2006年10月 (巻頭言)「簿記の感覚の希薄化」『産業経理』66巻3号
- 2007年1月 (巻頭言)「会計人の世界の盛況と危惧」『産業経理』66巻4号
- 2007年4月 「〈会計余話〉和式帳合の貸方・借方という言葉をめぐる」『産業経理』67巻1号
- 2007年6月 (巻頭言)「〈Accounting Square〉わが国の会計界の現状と課題」『季刊会計基準』17号
- 2007年7月 「〈会計余話〉初期簿記書の用語較べ」『産業経理』67巻2号
- 2007年9月 「〈視点〉会計士界の明日への期待」『会計・監査ジャーナル』19巻9号
- 2007年10月 「〈会計余話〉初期簿記書の用語較べ (続)」『産業経理』67巻3号
- 2008年1月 「〈会計余話〉初期簿記書の書式較べ」『産業経理』67巻4号
- 2008年4月 (巻頭言)「雑誌『会計』バックナンバーDVD-ROM 化の壮挙」『産業経理』68巻1号
- 2008年7月 (巻頭言)「少子化社会の教育関係現場からの思い」『税経通信』63巻7号
- 2008年7月 (巻頭言)「財務諸表の過年度遡及修正の動きと問題点」『産業経理』68巻2号

- 2008年10月 (巻頭言) 「会計学術雑誌バックナンバー電子化の活用成果に乾杯！」『産業経理』68巻3号
- 2009年1月 (巻頭言) 「国際会計基準と会社法「会計の原則」規定」『産業経理』68巻4号
- 2009年4月 (巻頭言) 「世界同時不況下の会計ルールの変更」『産業経理』69巻1号
- 2009年7月 (巻頭言) 「国際会計基準と法制度」『産業経理』69巻2号
- 2009年10月 (巻頭言) 「「剰余金の配当」議案に原資の記載を！」『産業経理』69巻3号
- 2010年1月 (巻頭言) 「簿記会計と財務報告はやがて別物？」『産業経理』69巻4号
- 2010年1月 「財務報告の前に会計管理あり」『建設業の経理』50号
- 2010年4月 (巻頭言) 「中小企業の会計ルールをめぐる新しい動き」『産業経理』70巻1号
- 2010年7月 (巻頭言) 「「包括利益の表示に関する会計基準」の画期性」『産業経理』70巻2号
- 2010年10月 「「非上場会社の会計基準に関する懇談会」の検討結果について」(日本税理士会連合会発行新聞)『税理士界』1273号
- 2010年10月 (巻頭言) 「企業会計は混乱期に突入か？」『産業経理』70巻3号
- 2010年10月 (巻頭言) 「〈彩雲〉中小企業の会計に関する新しい局面」『建設業の経理』53号
- 2011年1月 (巻頭言) 「IASB・FASB 共通の新概念フレームワークと「信頼性」」『産業経理』70巻4号
- 2011年4月 (巻頭言) 「学術刊行と大災害」『産業経理』71巻1号
- 2011年7月 (巻頭言) 「企業会計審議会とIFRS対応問題」『産業経理』71巻2号
- 2011年9月 「ASBJ/FASF の印象深い出来事」『季刊会計基準』34号
- 2012年1月 (巻頭言) 「「何」の概念フレームワークか」『産業経理』71巻4号
- 2012年4月 (巻頭言) 「「中小企業の会計に関する基本要領」の公表」『産業経理』72巻1号
- 2012年7月 (巻頭言) 「企業会計審議会におけるIFRS対応論議の「中間的論点整理」」『産業経理』72巻2号
- 2012年10月 (巻頭言) 「公益法人会計の財産目録に希望！」『産業経理』72巻3号
- 2012年11月 「〈時流〉混乱期にある企業会計」『ZEIKEN 税研』166号 公益財団法人日本税務研究センター
- 2013年1月 (巻頭言) 「会計史研究と企業会計の現状」『産業経理』72巻4号
- 2013年4月 (巻頭言) 「一般財団法人産業経理協会の発足」『産業経理』73巻1号
- 2013年5月 「建設産業経理研究機構の存在意義」『建設業の経理』63号
- 2013年5月 「〈時流〉簿記教科書と税法」『ZEIKEN 税研』169号
- 2013年7月 (巻頭言) 「IFRS対応に関する「当面の方針」の公表」『産業経理』73巻2号
- 2013年10月 (巻頭言) 「式年遷宮の報道と数字」『産業経理』73巻3号
- 2013年11月 「〈時流〉小中高学習指導要領と租税(納税義務)」『ZEIKEN 税研』172号
- 2014年4月 (巻頭言) 「大学教育現場の今昔」『産業経理』74巻1号
- 2014年5月 「〈時流〉会計基準の複線化の行き過ぎ」『ZEIKEN 税研』175号
- 2015年1月 (巻頭言) 「研究倫理・職業倫理の時代」『産業経理』74巻4号
- 2015年3月 「〈時流〉多すぎる会計諸学会」『ZEIKEN 税研』180号
- 2015年7月 (巻頭言) 「カタカナ用語の功罪」『産業経理』75巻2号
- 2015年9月 「〈時流〉カタカナ用語の氾濫」『ZEIKEN 税研』183号
- 2015年10月 (巻頭言) 「株式会社の諸制度の世界多様性」『産業経理』75巻3号
- 2016年3月 「〈時流〉アカウントビリティの原義：会計責任」『ZEIKEN 税研』186号

- 2016年4月 (巻頭言)「会計責任と説明責任」『産業経理』76巻1号
2016年7月 (巻頭言)「産業経理という言葉」『産業経理』76巻2号
2016年9月 「〈時流〉カリキュラムの過密化」『ZEIKEN 税研』189号
2017年3月 「〈時流〉職業会計人の裾野—簿記の学習人口—」『ZEIKEN 税研』192号
2017年9月 「〈時流〉会計帳簿の作成義務—特殊法人等に法の不備—」『ZEIKEN 税研』195号
2018年3月 「〈時流〉改名好きの国民性—時には問題も—」『ZEIKEN 税研』198号
2018年9月 「〈時流〉法律用語の変更—学術研究には打撃も—」『ZEIKEN 税研』201号
2019年3月 「〈時流〉統計不正問題と統計法—会計から見た基幹統計の信頼性—」『ZEIKEN 税研』204号
2019年9月 「〈時流〉「資本と利益の区別」における税法の存在感」『ZEIKEN 税研』207号